

中央大学書道會

題字 / 法学部3年 市川朱里



◎梶田碧希
「蘭亭序」

学生生活最後の作品。今まで鍛錬を重ねてきた「蘭亭序」で完結。今後は書道を継続するか未定ではあるが、これを自分の取り柄だと信じ生きていきたい。



◎人見恵莉香
「真草千字文」

4年間書き続けてきた真草千字文で最後の書展を締めました。自然な流れを大切に、心を込めて仕上げました。



◎伊與田笑
「多宝塔碑」

学生生活最初で最後の作品です。楷書で書道が続けてきたので多宝塔碑を選びました。力強く堂々と書くことを心がけました。

こんにちは、中央大学書道會です。寒さも和らぎ、また春がやってこようとしています。今回は4年生の学生生活最後の作品を紹介します。活動の集大成を今年度最後の書展で発表しました。



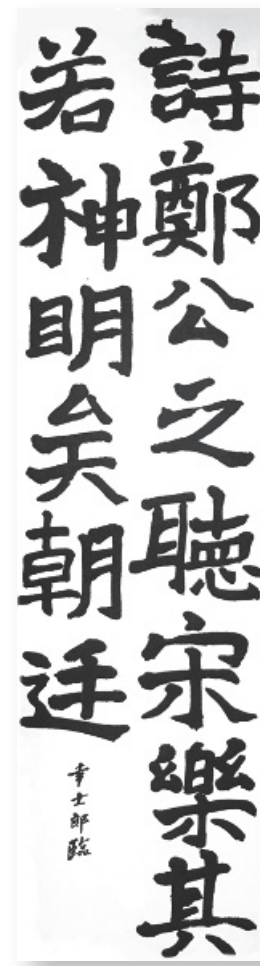
◎田中良
「川の音が聞こえる」

同調を成長と云うのは“先生”です。街の汚れをのぞく役割を担います。正しさは時代によりますが、汚れを見出す方法は普遍です。



◎飯村秀一郎
「千鍛万錬」

千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす。この言葉を胸に新年度から頑張っていこうと思います。



◎坂田幸士郎
「鄭義下碑」

基本的に丸みを帯びている一方で、どこか角があり、躍動感を覚えさせる書体に心惹かれました。



◎森本真由
「花」

先輩たちと合作した作品。ハスの花を描くのに手間取りましたが、差し色に金色を使ったので華やかな出来になりました！

いかがでしたでしょうか。「最後の書展」をテーマとした色紙をはじめ、どの作品も4年間の有終の美を飾るにふさわしい作品ではないでしょうか。4年生の前途にたくさんの幸がありますよう。